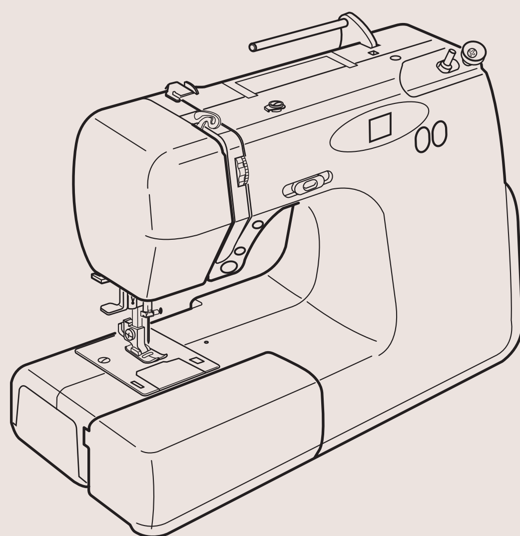
ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
🛇	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
!	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行　一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	必ずプラグを抜く　以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止　お客様自身での分解はしないでください。	必ず実行　針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。
接触禁止　ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	必ず実行　以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
禁止　ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	必ず実行　電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
禁止　曲がったり、先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。	必ずプラグを抜く　以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
禁止　フットコントローラーの上に物をのせないでください。	必ずプラグを抜く　ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
禁止　プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。	
禁止　付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。	
注意　お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。	
必ず実行　ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。	

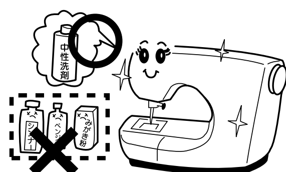
目　次

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

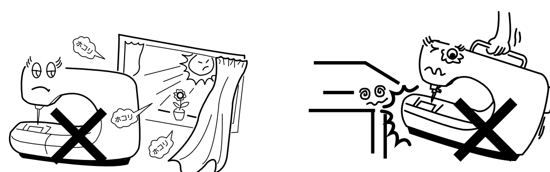


◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

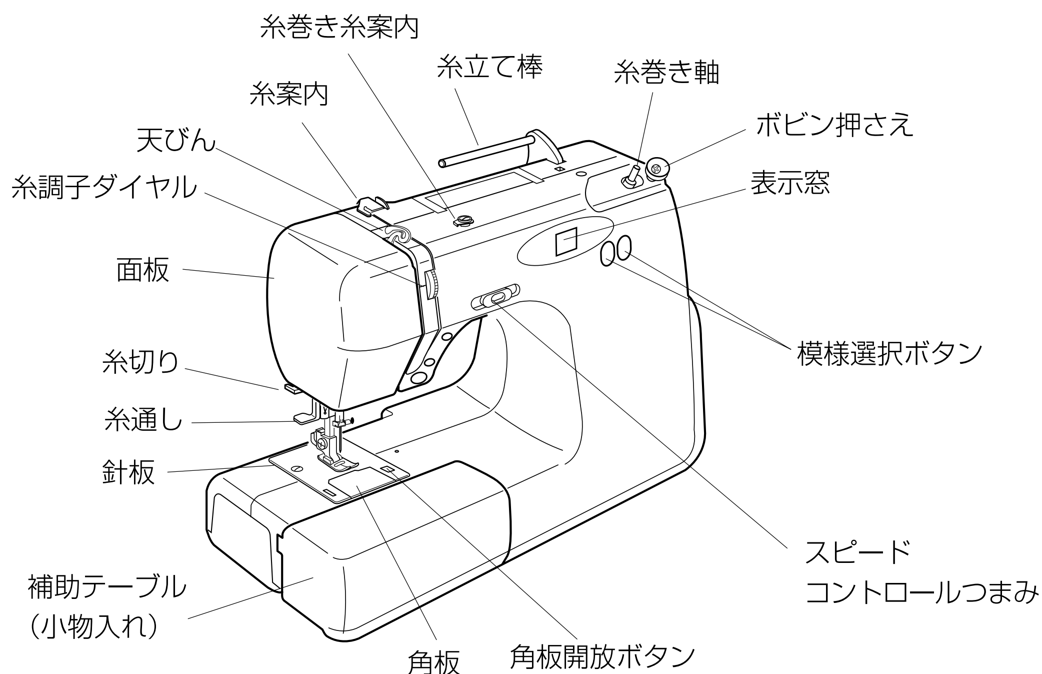
② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

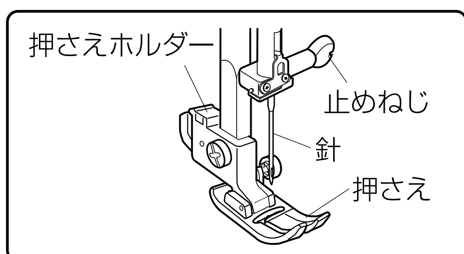
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

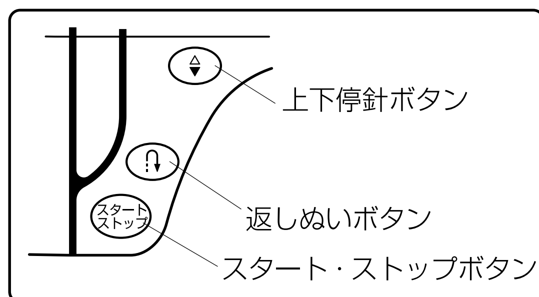


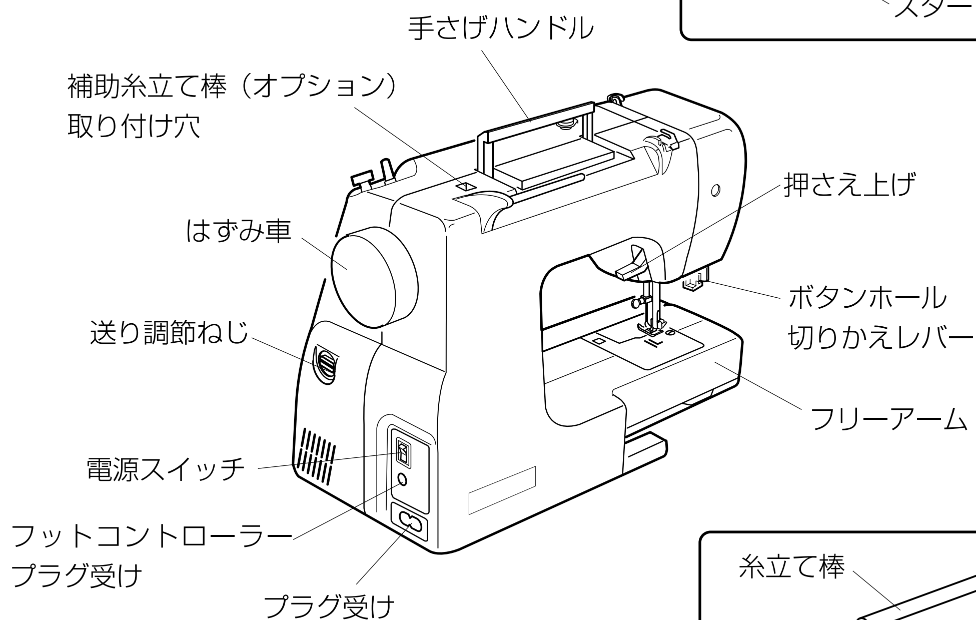
◇修理・調整についてのご案内　万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（33ページ）により点検・調整を行ってください。

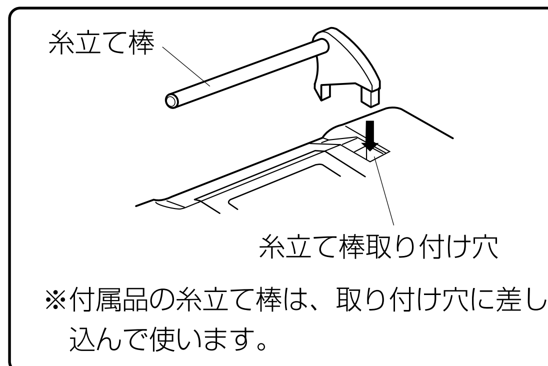
●各部のなまえ





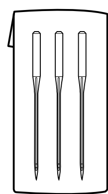


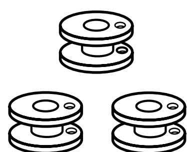


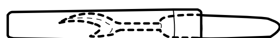


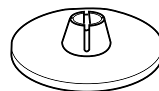
※付属品の糸立て棒は、取り付け穴に差し込んで使います。

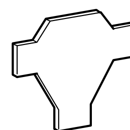
●標準付属品

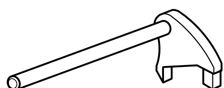

針

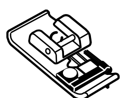

ボビン

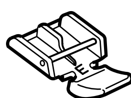

シームリッパー


糸こま押さえ（大）

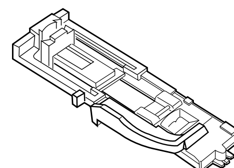

専用ドライバー

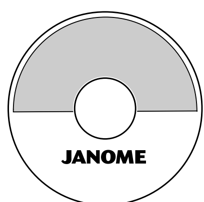

糸立て棒


C：たち目かがり
押さえ

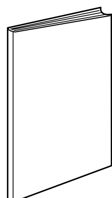

E：ファスナー
押さえ

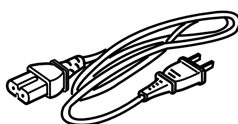

F：サテン押さえ

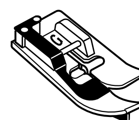

R：ボタンホール
押さえ

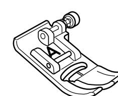


取扱説明 DVD


取扱説明書

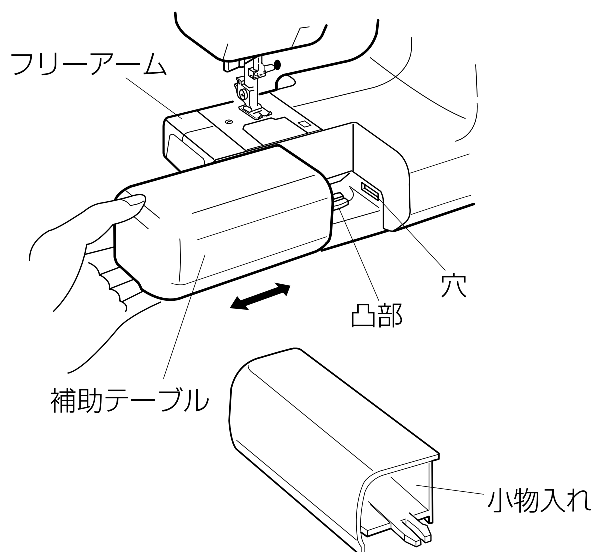

電源コード


G：くけぬい押さえ


A：基本押さえ

※A：基本押さえはミシン本体に付いています。

●補助テーブルの外し方



補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

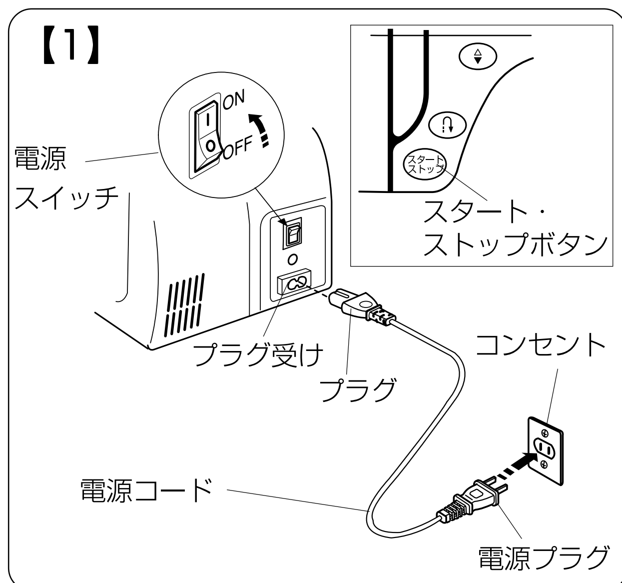
※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、補助テーブルの凸部を穴に入れ取り付けます。

補助テーブルを外し、押さえ等の小物を収納します。

【フリーアームの使い方】

そで口やすそなどをぬうとき、および、ふくろ物の口端の始末をするときに使用します。

●電源のつなぎ方



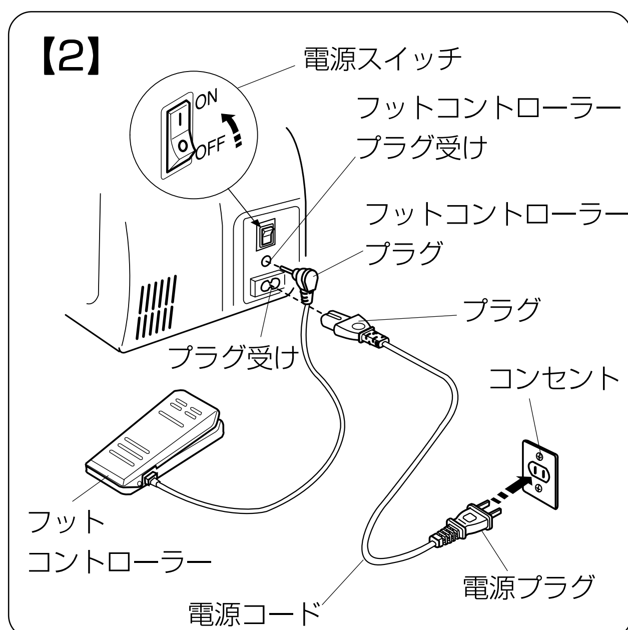
⚠ 警告
• 電源は、一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。 • ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを「OFF」（切）にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。 **感電・火災の原因になります。**

【1】スタート・ストップボタン使用のとき

① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

② プラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。

③ 電源スイッチを「ON」（入）にします。



【2】フットコントローラー使用のとき

※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

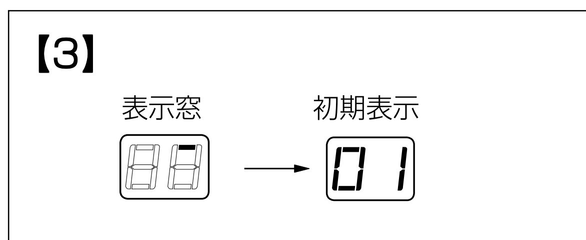
（フットコントローラー使用のときは、スタート･ストップボタンは使用できません。）

① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。

② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。

③ プラグをプラグ受けに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。

④ 電源スイッチを「ON」（入）にします。



【3】電源投入時..

1秒後に模様 01 [01] を表示します。

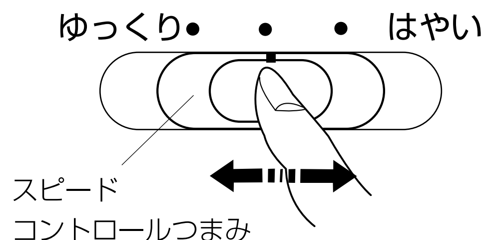
これでミシンの準備が完了です。

― お願い ―

電源を入れ直すときには、電源スイッチを切ってから約3秒後に入れてください。再投入時間が短かった場合には、安全装置が作動しミシンランプが点滅する場合があります。一旦電源スイッチを切り、ランプの点滅がなくなってから（電源を切ってもしばらく点滅します。）電源を入れてください。

●速さの調節

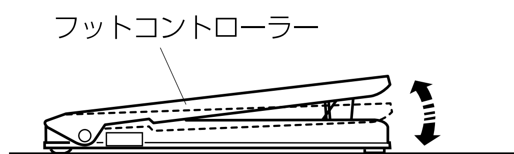
【1】



【1】スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみを左右に動かして、最高速度を調節します。

【2】



【2】フットコントローラー

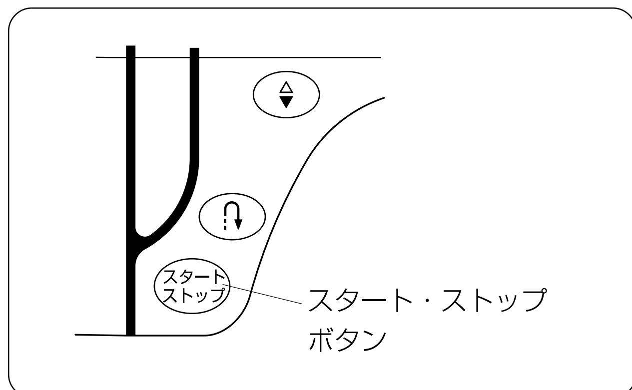
※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

スピードコントロールつまみを通常「はやい」位置にセットします。
フットコントローラーの踏みかげんでぬう速さが調節できます。
深く踏む→速くなる。
浅く踏む→遅くなる。

※ スピードコントロールつまみは、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節します。

※ フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。また、フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。
けがや故障の原因となります。

●操作ボタンのはたらき

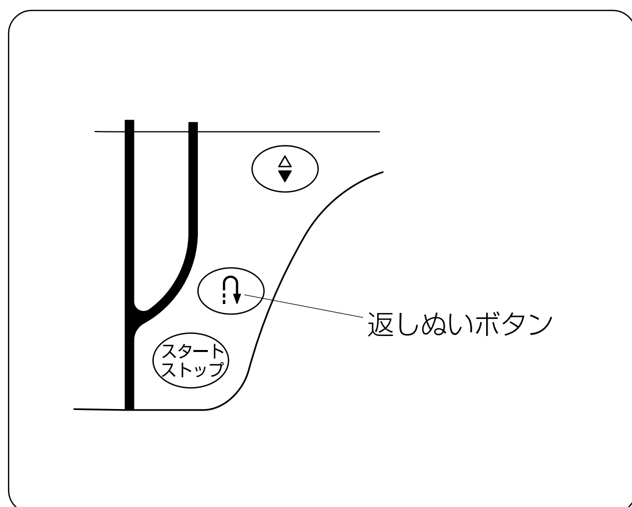


スタート・ストップボタン

ボタンを押すと､ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動き始めます。

※ボタンを押している間､ミシンはゆっくり動きます。

※スタート・ストップボタンを使用するときは､フットコ ントローラーの接続を外してください｡



返しぬいボタン

【運転中の返しぬい】

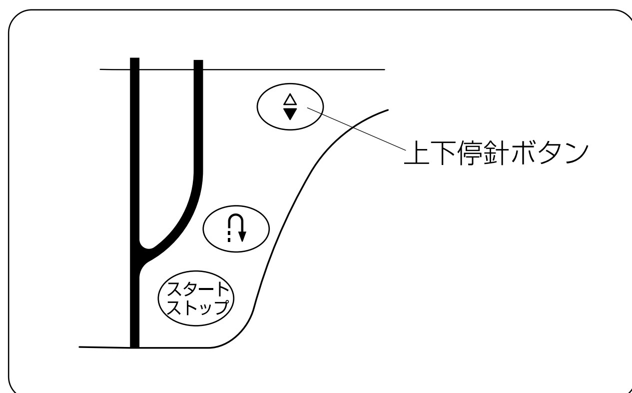
模様 01 02 03 04 05 06 07 10 は、返しぬいボタンを押している間返しぬいをします。

その他の模様は、すぐに止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】

(スタート・ストップボタン使用時のみ)

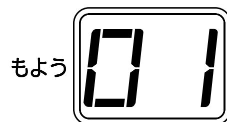
模様 01 02 03 04 05 06 07 10 は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押している間返しぬいをし、指をはなすと止まります。

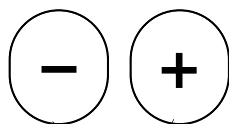


上下停針ボタン

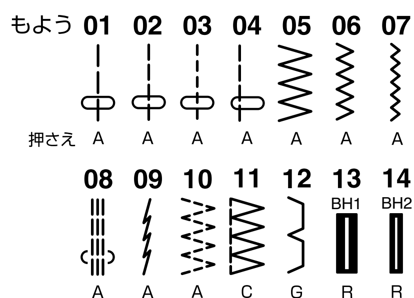
ミシンが止まっているとき、上下停針ボタンを押すと、針が上位置から下位置に切りかわります。もう一度押すと、上位置に切りかわります。

※下位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は下位置で止まります。





模様選択ボタン



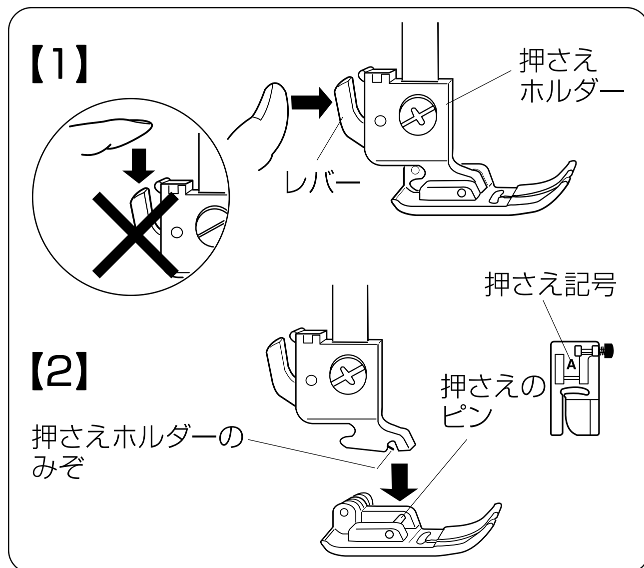
模様選択ボタン

模様選択ボタンを押して、選びたい模様の番号を表示させます。

※模様選択ボタンを押すときは、針を布からあげてください。

※押さえの記号は、模様に合った基本的な押さえとなっていますので、同じ模様でもぬい方により使用する押さえが異なる場合があります。使用する押さえは、ぬい項目のミシンのセットをごらんください。

●押さえの取りかえ方



⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行ってください。
また、押さえは模様に合ったものを使用してください。押さえが合っていないと、針が押さえにあたりケガの原因となり危険です。

【1】押さえの外し方

針をあげ、押さえをあげます。押さえホルダーのレバーを図のようにうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

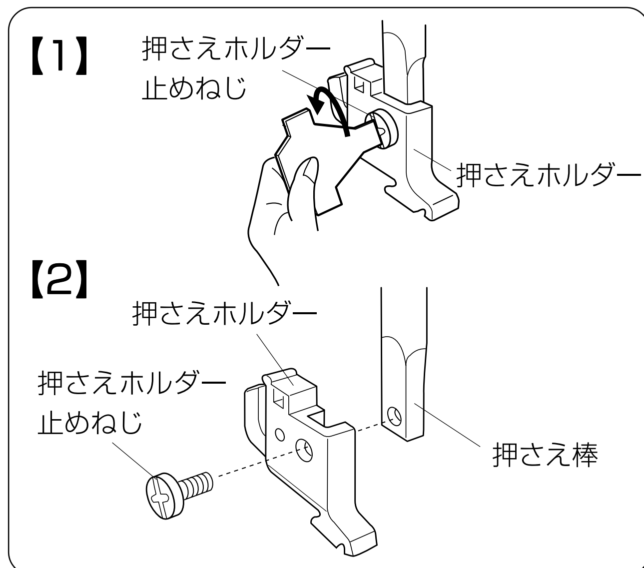
※レバーを上から押すと、故障の原因になりますので押さないでください。

【2】押さえの付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

※押さえには、記号が付いていますので模様に合った押さえを使用してください。

●押さえホルダーの外し方、付け方



⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行ってください。
ケガの原因となり危険です。

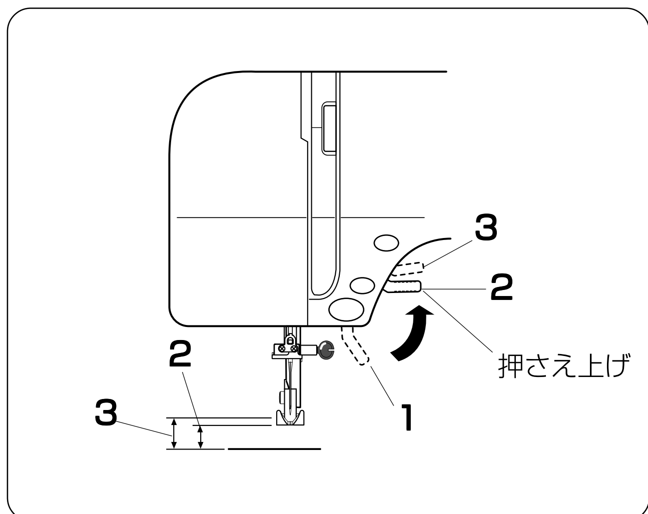
【1】押さえホルダーの外し方

押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【2】押さえホルダーの付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえ棒にしっかり取り付けます。

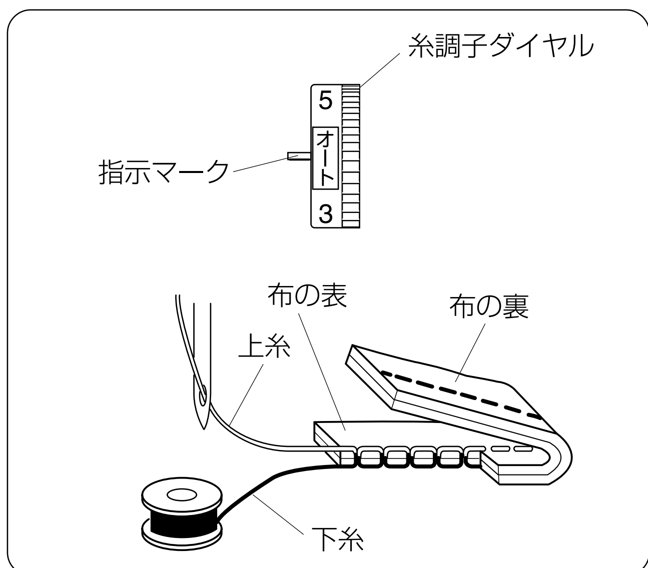
●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げは普通にあげた位置よりさらに高くあげることができます。

1 さげた位置 .... ぬうときには、さげておきます。
2 普通にあげた位置 .... 布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
3 さらにあげた位置 .... 補助リフトで、厚い布が入れやすくなります。

●糸調子の合わせ方



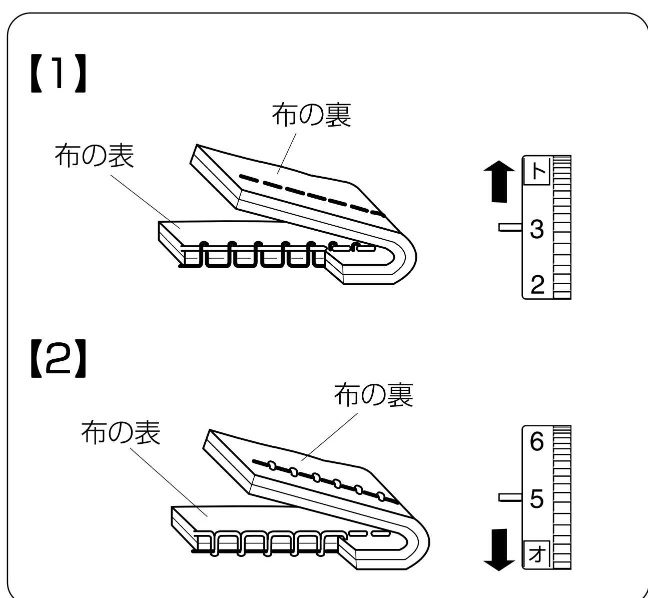
【自動糸調子】

指示マークに糸調子ダイヤルの「オート」を合わせると、普通ぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

バランスのとれた糸調子

直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。
ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

【マニュアル糸調子】



糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

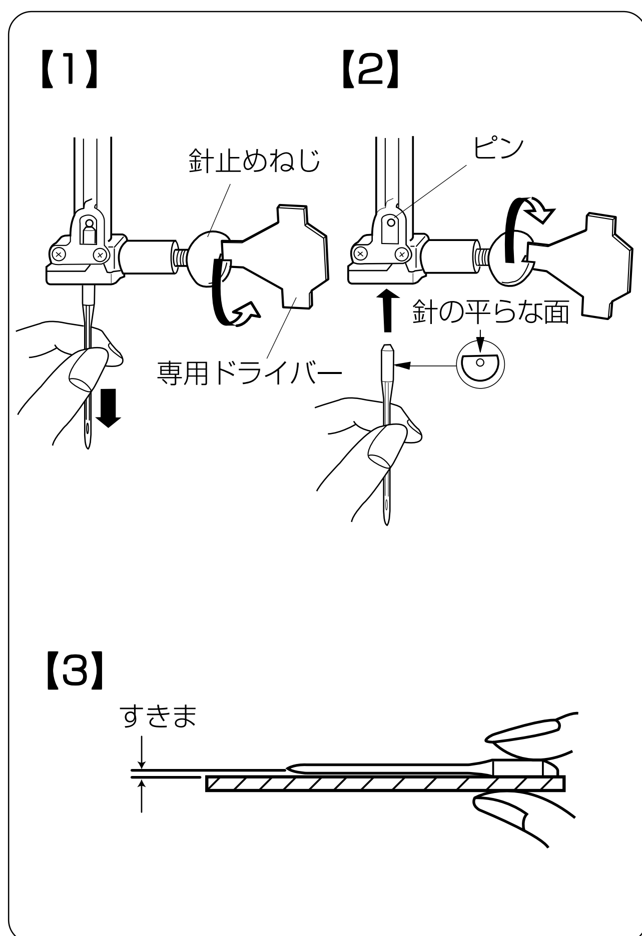
【1】上糸が強すぎるとき

下糸が布の表に出ます。・・・糸調子ダイヤルを小さな数字に合わせます。

【2】上糸が弱すぎるとき

上糸が布の裏に出ます。・・・糸調子ダイヤルを大きな数字に合わせます。

●針の取りかえ方



⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行ってください。 ケガの原因となり危険です。

※はずみ車を手でまわして針をあげ、押さえをあげます。

【1】針の外し方

専用ドライバーを使って針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】針の付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、針がピンにあたるまで差し込み、専用ドライバーで針止めねじをかたくしめます。

※針が正しく付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れの原因となり危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

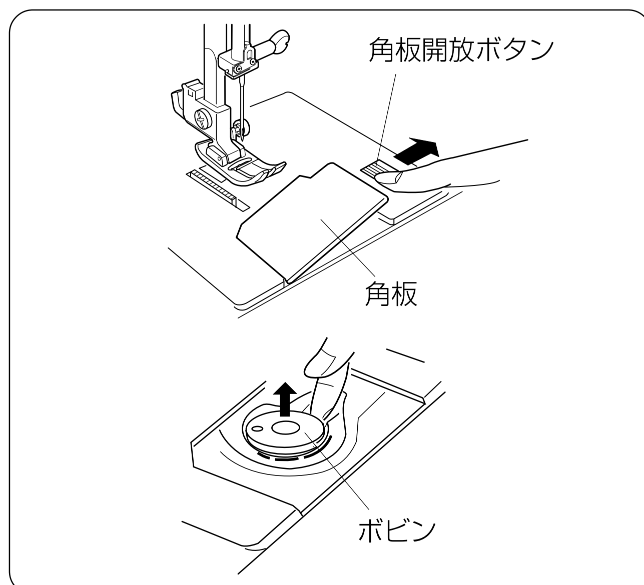
※曲がった針を使うと、針折れの原因となり危険です。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	ポリエステル　90番	９番～11番
普通の布	普通木綿・化繊布 一般ウール ジャージー コート地	絹　糸　50番 綿　糸　60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿　糸　50番	14番
厚い布	デニム キルティング	絹　糸　50番 綿　糸　40番～50番 ポリエステル　40番～50番	14番～16番
		ポリエステル　30番 綿　糸　30番	16番

※付属品には、針はHA×１－14番が入っています。
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。
※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。
※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針（オプション）を使用すると防止効果があります。（市販のオルガンＳＰ針も同様の効果があります。）

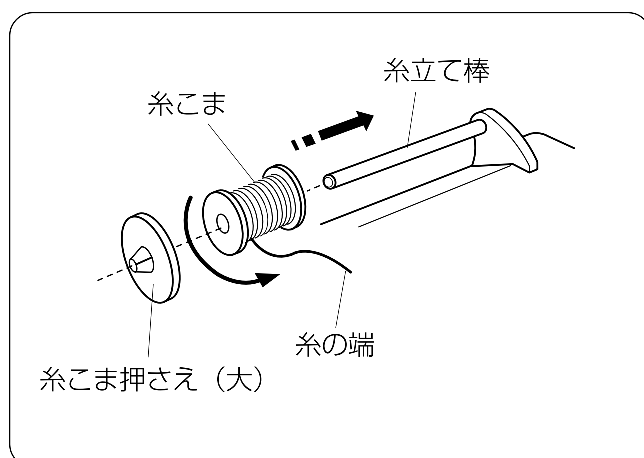
●下糸の準備をしましょう



★ボビンを取り出します

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

※ボビンは、必ず専用ボビンをご使用ください。
他の製品を使うと故障の原因になります。

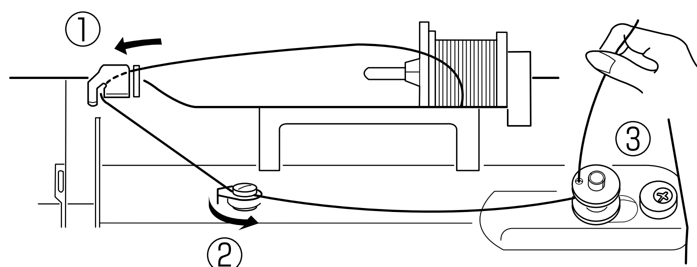


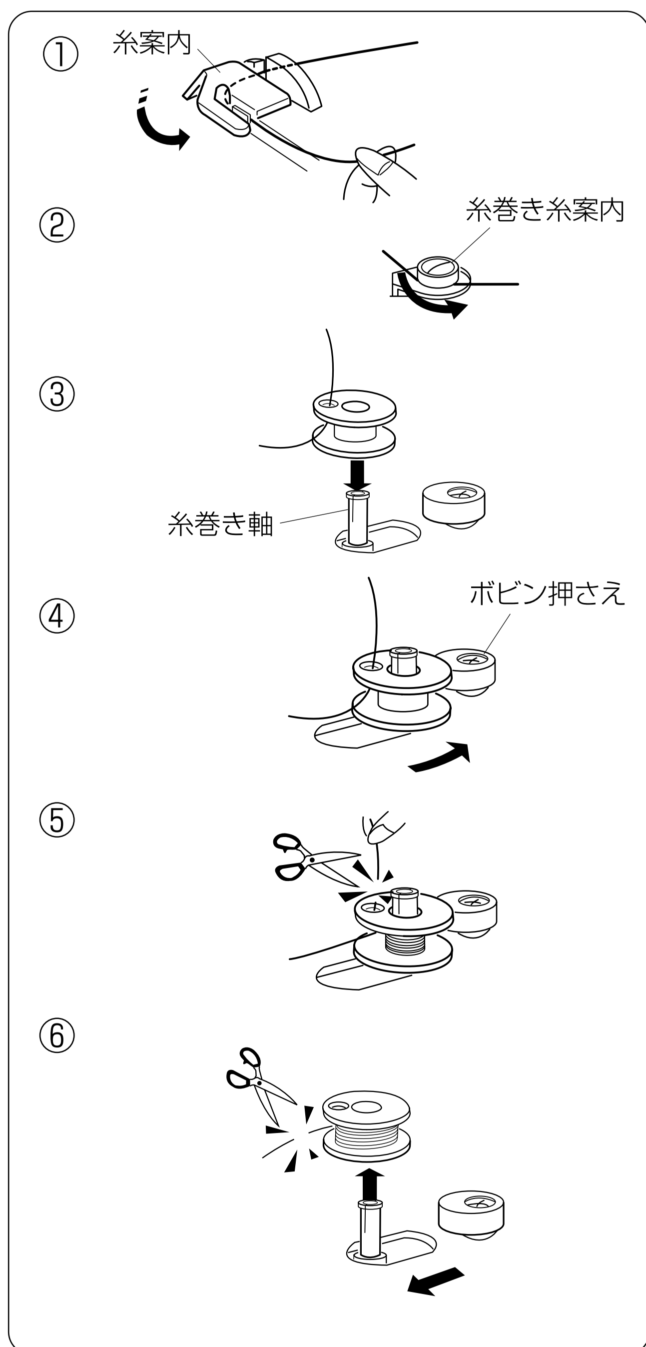
★糸こまをセットします

糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸立て棒に糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

※糸こま外れ防止のため、必ず糸こま押さえを使用してください。

★ボビンに糸を巻きます





※　糸を巻くときは、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。

① 糸を両手で持って糸案内のうしろ側からかけ、手前に出します。

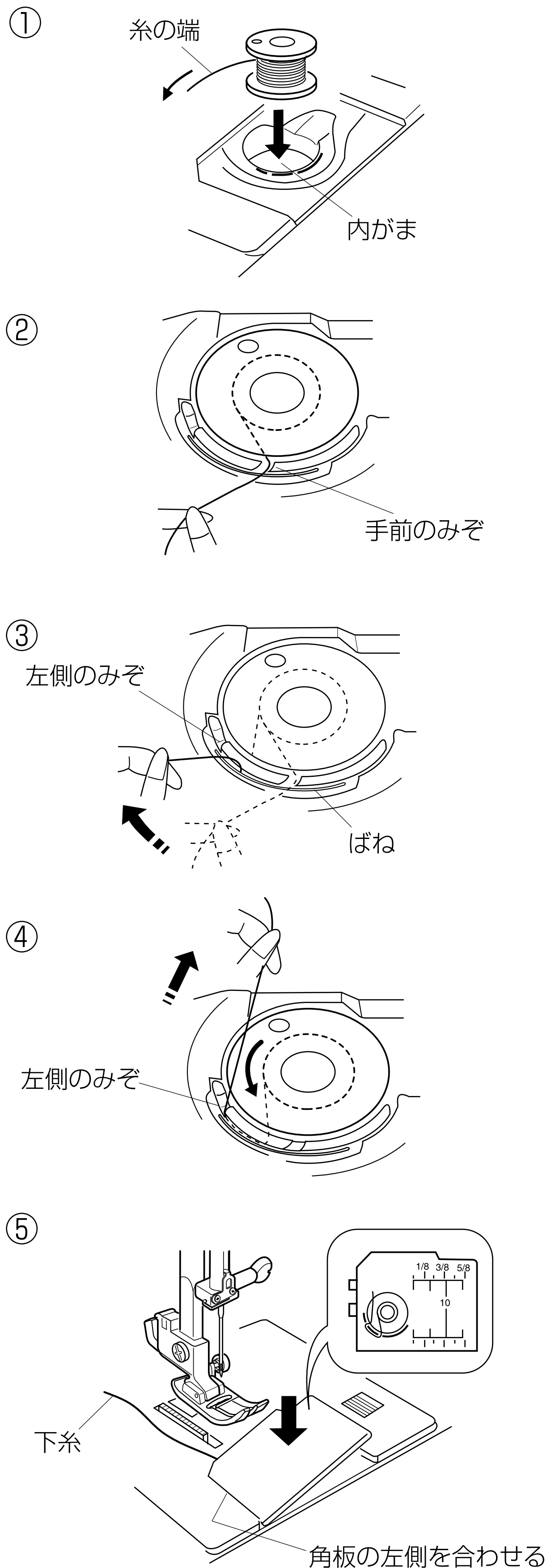
② 糸巻き糸案内に左からかけます。

③ ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

④ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。
表示窓に SP と表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

⑤ 糸の端をつまんだままスタート･ストップボタンを押して巻きはじめます。
2～3重巻きついたらスタート・ストップボタンを押して、ミシンを止めます。
つまんでいる糸をボビンのきわで切ります。

⑥ 再びスタート・ストップボタンを押して巻きはじめます。
巻き終わるとボビンの回転が止まります。
スタート･ストップボタンを押し、ミシンを止めて糸巻き軸を元にもどし、糸巻き軸からボビンを外して糸を切ります。
※　糸巻き軸は、必ずミシンを止めてからもどしてください。



★ボビンを内がまにセットします

① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

② 糸の端を引きながら、手前のみぞにかけます。

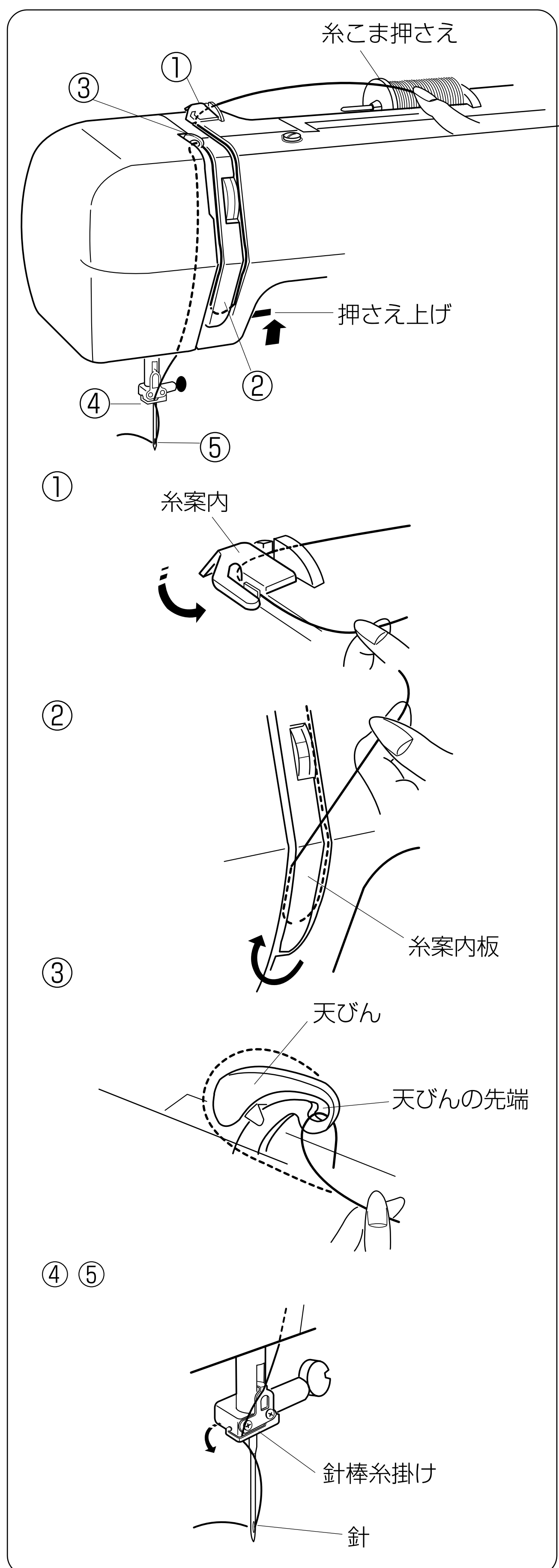
③ 糸を引きながら左へ移動させ、ばねの間を通して左側のみぞに出します。

④ 糸を左側のみぞにかけるように向こう側に出します。

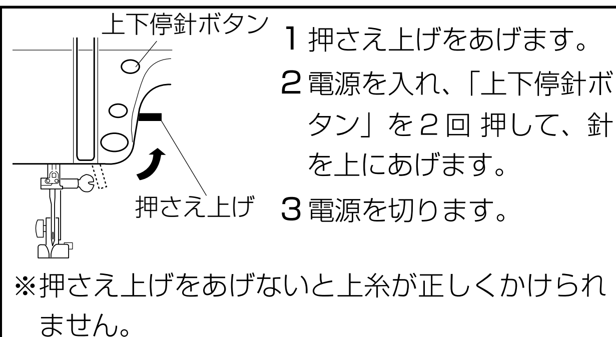
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえてください。

⑤ 下糸は 10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

●上糸の準備をしましょう



【準備】



1 押さえ上げをあげます。
2 電源を入れ、「上下停針ボタン」を２回 押して、針を上にあげます。
3 電源を切ります。

※押さえ上げをあげないと上糸が正しくかけられません。

★上糸のかけ方

※　糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸を両手で持って糸案内のうしろ側からかけ、手前に出します。

② 糸案内板にそっておろし、下をまわして左上に引きあげます。

③ 天びんには、右からうしろをまわして天びんの先端まで入れ、まっすぐ下におろします。

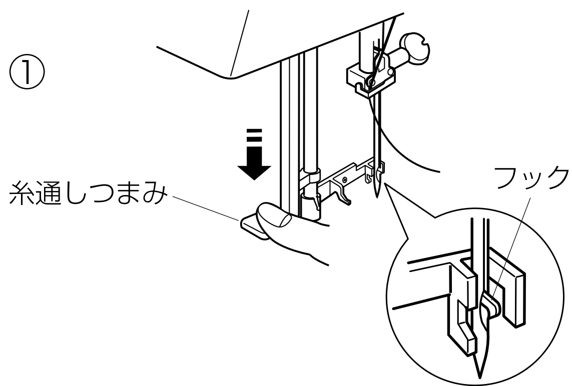
④ 針棒糸掛けに左からかけます。

⑤ 針には糸通しを使って糸を通します。

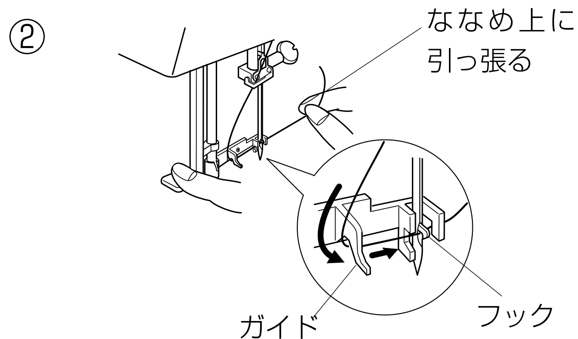
※　糸通しの使い方は、15ページをごらんください。

★糸通しの使い方

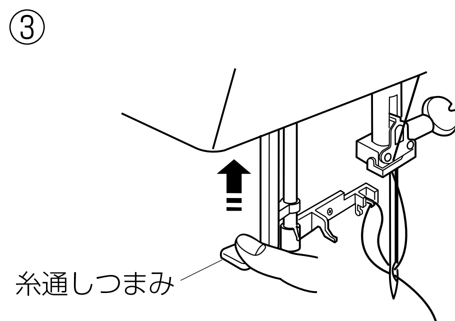
※ この糸通しは、針１１番～１６番、ミシン糸５０番～９０番に使えます。
※ 押さえをさげます。



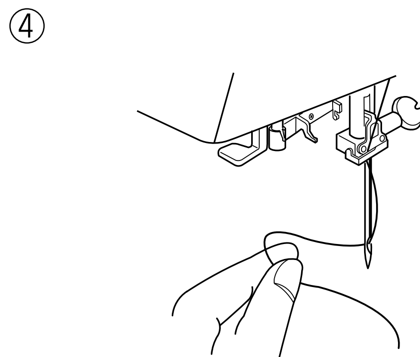
① 針をいちばん上にあげます。糸通しつまみをいちばん下までさげ、フックを針穴に入れた状態で保持します。
※ フックの先が針穴から出ているか確認してください。



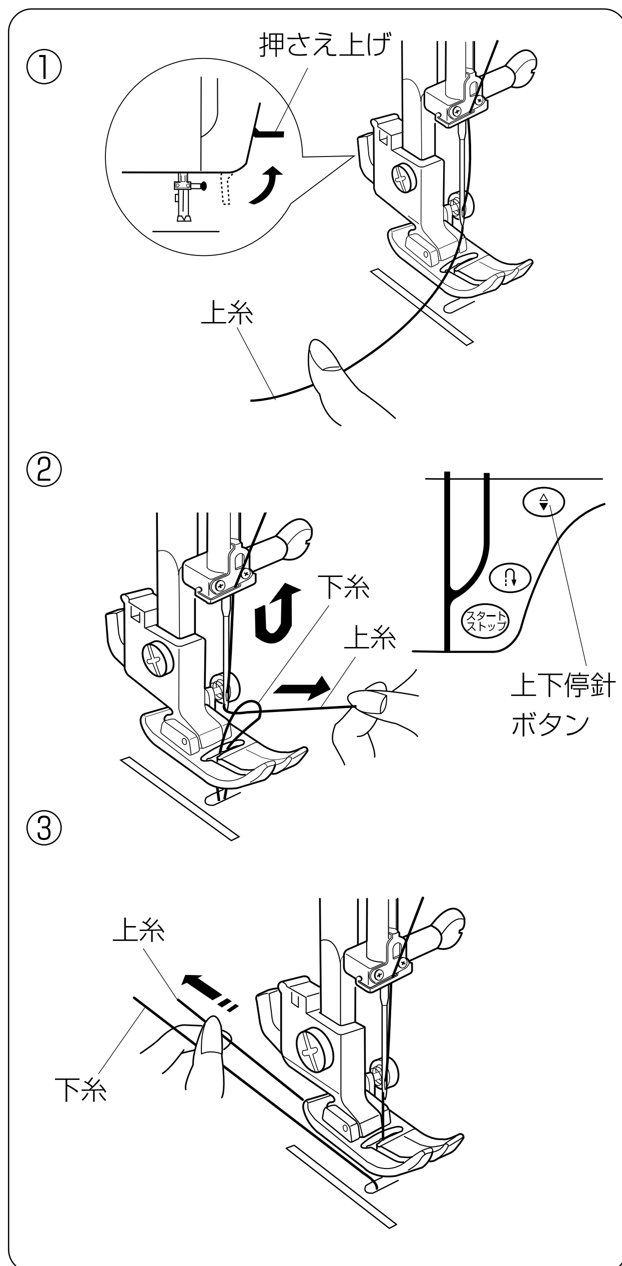
② 糸を左側からガイドとフックの下にかけます。
糸がたるまないように､ななめ上に軽く引っ張っておきます。



③ 糸を軽く引っ張ったまま、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引き上げられます。



④ 針穴から糸の端を引き出します。



★下糸を引きあげます

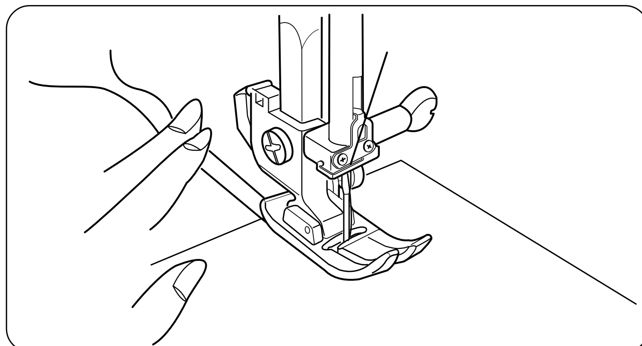
① 押さえ上げをあげ､糸の端を指で押さえておきます。

② 上下停針ボタンを 2 度押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10cm ほどうしろへそろえて引き出します。

●直線ぬい

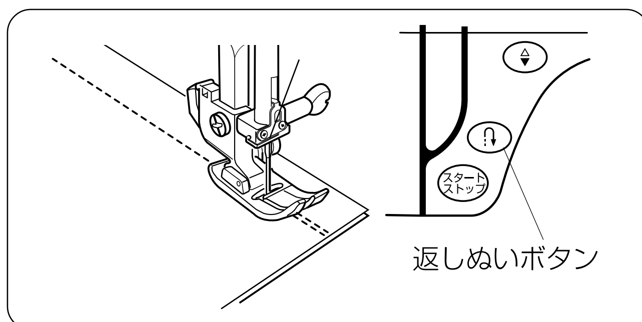
ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	01 02 03 04	01	A：基本押さえ	オート（5 オート 3）



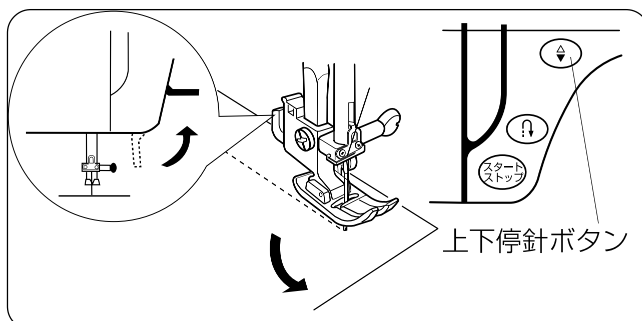
★ぬい始め、ぬい終わり

上糸と下糸を押さえの下を通し向こう側に引き出しはずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさします。押さえをさげてぬい始めます。

※F:サテン押さえとR:ボタンホール押さえの場合は、上糸、下糸を横に出しておきます。

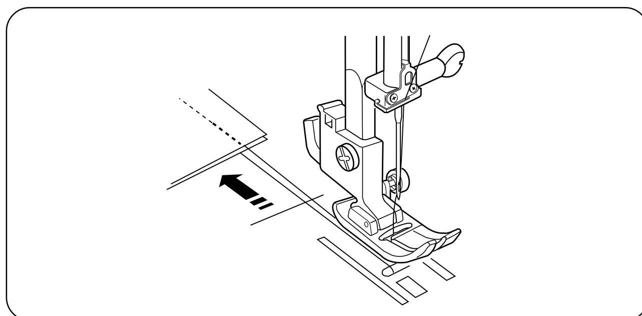


ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを押してぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。



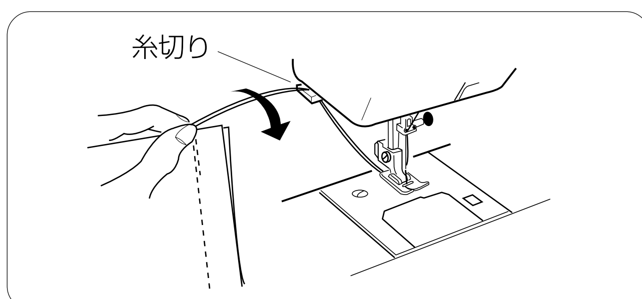
★ぬい方向の変更

ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布に刺し押さえをあげます。
針を布に刺したまま、ぬい方向をかえます。



★布の引き出し方

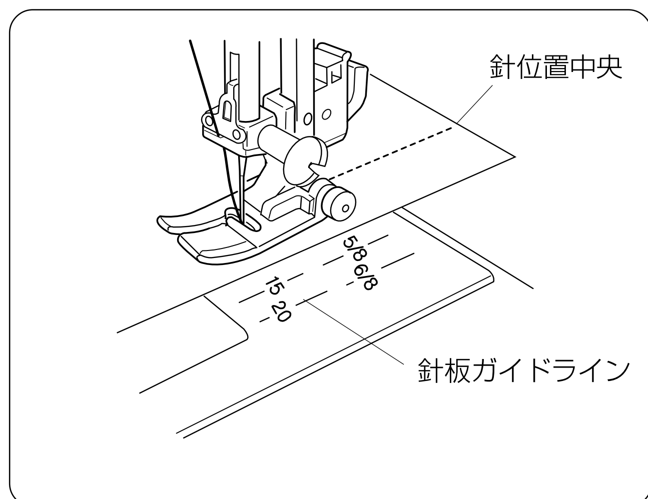
押さえをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。



★糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

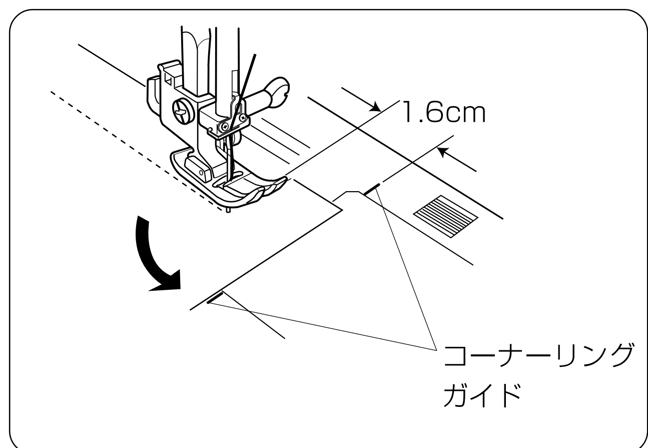
●針板ガイドラインの使い方



布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、ぬいしろの幅がそろいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
ぬいしろの幅（cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

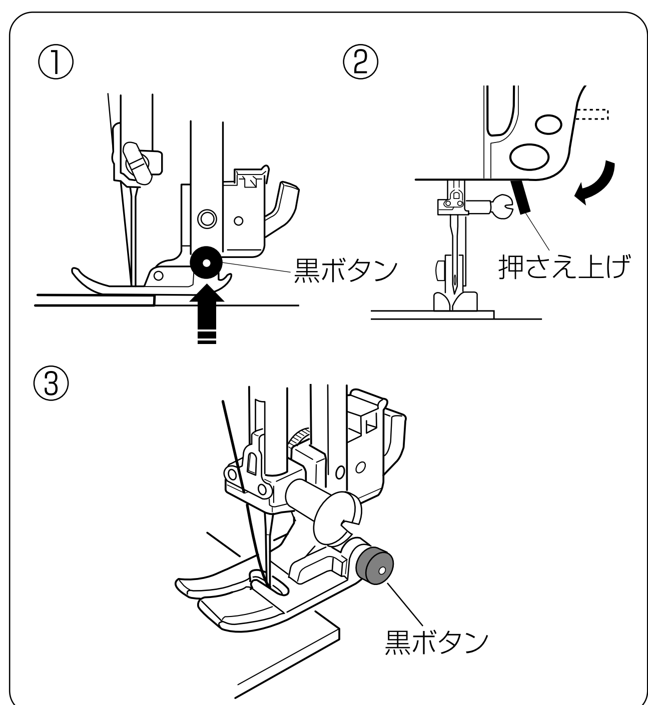
※数字は、針位置中央から針板ガイドラインまでの距離です。



★コーナーリングガイドの使い方

布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、針を布に刺したまま押さえをあげ、布をまわし方向をかえます。
コーナーリングガイドは針位置から1.6cmの位置にあります。

●厚手の布端のぬい始め



① ぬい始めの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押しこみます。

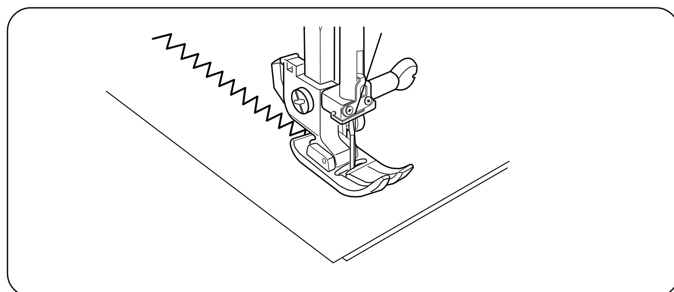
② 黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。

※ 黒ボタンを押した状態で押さえをさげると、押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬうことができます。

③ 黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

●ジグザグぬい

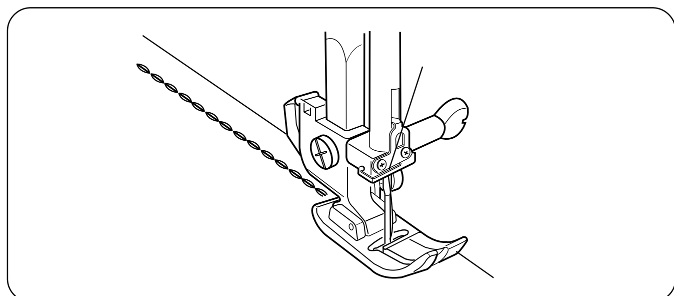
ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	05 06 07	05	A：基本押さえ	オート



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には芯地を貼るときれいにぬえます。

● 三重ぬい

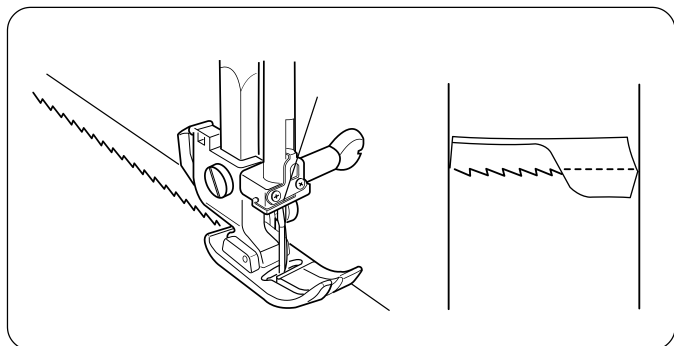
ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	08	08	A：基本押さえ	オート



三重にぬうのでぬい目が強く、補強ぬいに便利です。

● 伸縮ぬい

ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	09	09	A：基本押さえ	オート



布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。
直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

●たち目かがり

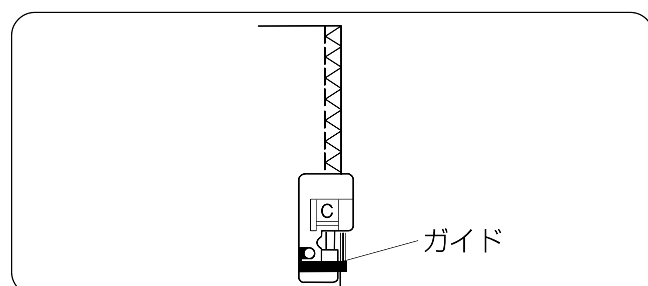
★たち目かがり

ミシンのセット

模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
11	11	C :たち目かがり押さえ	オート

⚠ 注意

C:たち目かがり押さえを使用するときは、模様 05 11 を使用します。それ以外で使用すると、針が押さえにあたり
ケガの原因となります。



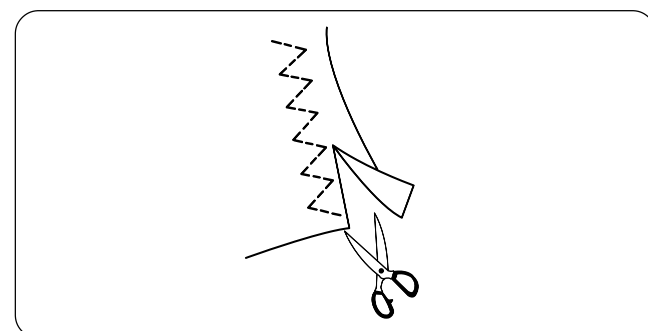
地ぬいをかねた、たち目かがりに使います。
布端を押さえのガイドに当ててぬいます。

※模様は、05 も使用できます。

★トリコットぬいたち目かがり

ミシンのセット

模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
10	10	A : 基本押さえ	オート



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに使います。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

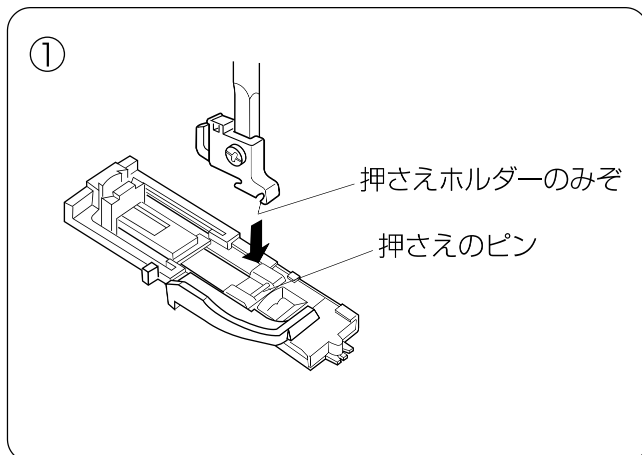
●ボタンホール

ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	13 BH1　14 BH2	13	R：ボタンホール押さえ	オート（5 オート 3）

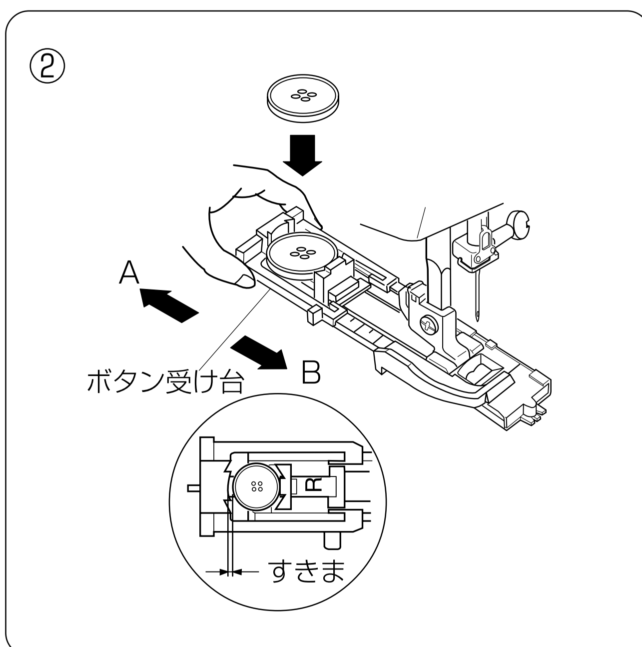
◎ 13 BH1 のボタンホールは、普通の布、厚い布の上衣などの大きいボタンに適しています。

◎ 14 BH2 のボタンホールは、うすい布でＹシャツ、ブラウスなどの小さいボタンに適しています。

◎ボタンホールの大きさは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。
◎直径が１～2.5cmのボタンのボタンホールができます。
◎ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。
◎伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。



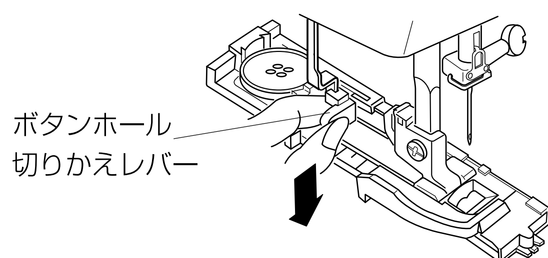
① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。



② ボタン受け台をＡ方向に引き、ボタンをのせてＢ方向にもどしボタンをはさみます。

※ボタン受け台とボタンの間にすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

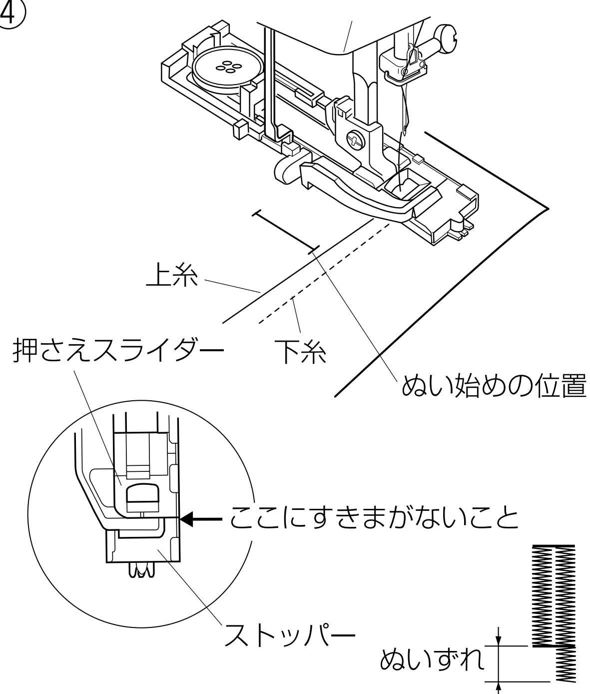
③



③ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

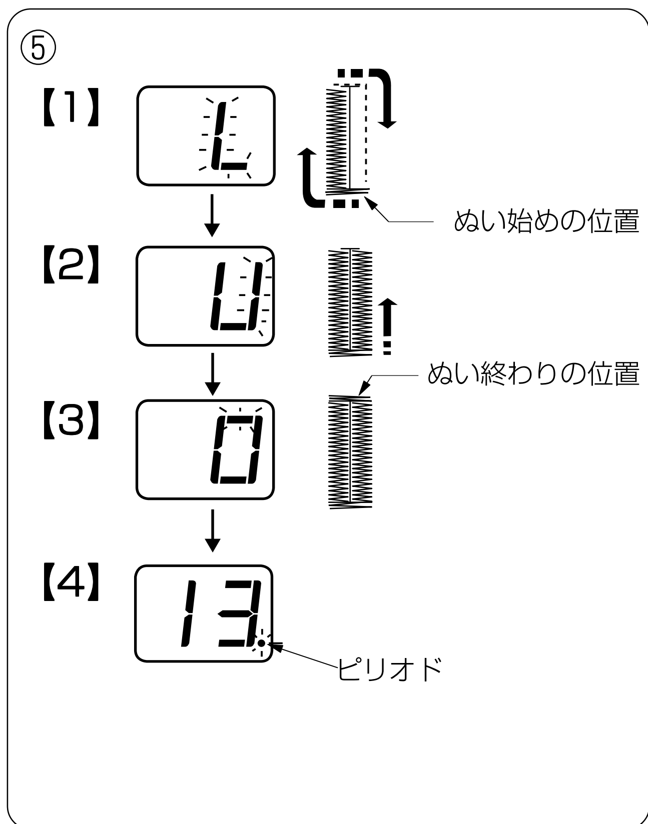
※ ボタンホール切りかえレバーのある場所は、2ページの「各部のなまえ」をごらんください。

④



④押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、はずみ車を手前にまわしてぬい始めの位置に針をさし、押さえをさげます。

※ぬい始めに、押えスライダーとストッパーの間にすきまがないことを確認してください。すきまがあると、ぬい終わったとき、ぬいずれがおこることがあります。



⑤ ミシンをスタートしてぬいます。

[ぬっていく順序]

【1】第1、第2ステップ

かんぬきと左側のラインタック部をぬいます。

※表示窓にはぬっているステップが表示され、点滅します。

【2】第3ステップ

右側のラインタック部をぬいます。

【3】第4ステップ

かんぬきと止めぬいを して自動的に止まります。

【4】ぬい終了

ピリオドが点滅します。

ピピピーとブザー音がします。

※重ねぬいをするときは、そのままミシンをスタートさせます。

重ねぬいは24ページをごらんください。

他の模様を選ぶときや、ボタンホールの大きさをかえたいときには、押さえをあげてからかえてください。

bL

【ぬい中にこんな表示が出た場合】

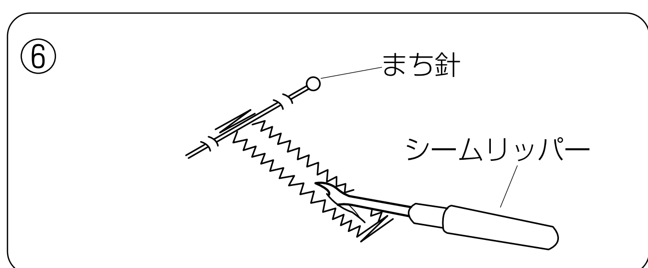
ボタンホール切かえレバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと、表示します。ボタンホール切かえレバーをさげて、再スタートしてください。

UP

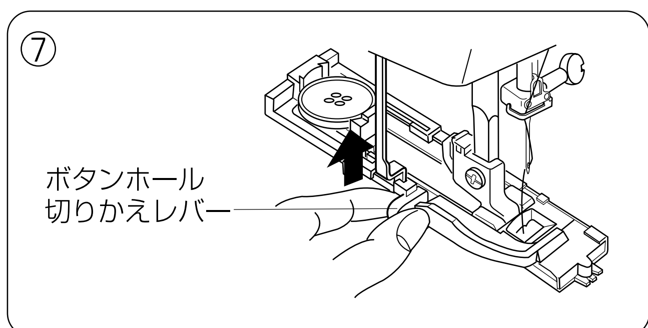
【模様を選ぼうとしてこんな表示が出た場合】

ボタンホールをぬった後に他の模様を選択しようとした場合、1度表示します。

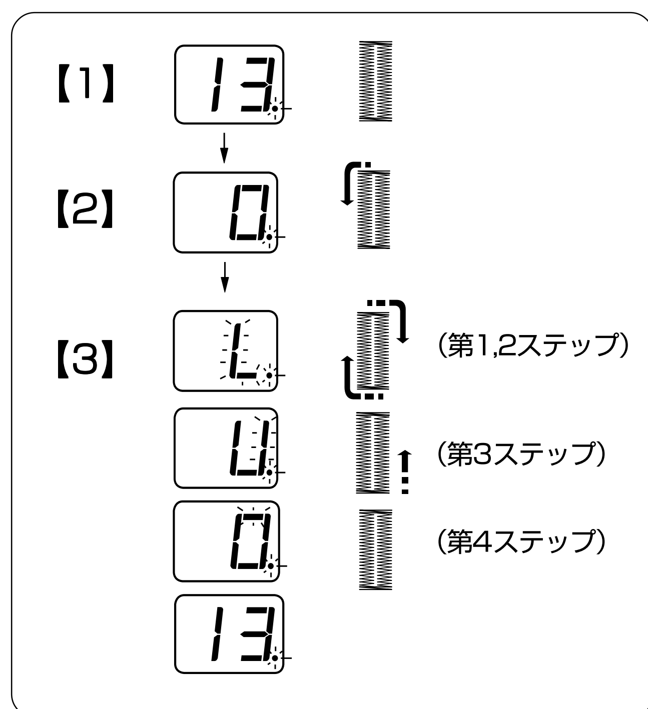
ボタンホール切りかえレバーと押さえ上げをあげてから、他の模様を選んでください。



⑥ ボタン穴は、かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。



⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげてもどします。



★ボタンホールの重ねぬい

（ボリューム感のあるボタンホールができます。）

【1】 1度目のぬい終了

ボタンホールをぬい終わったら押さえをさげたまま、ミシンを再スタートさせます。自動的に重ねぬいをします。

※ ピリオドの点滅は、重ねぬいできる状態を示します。

（2度目をぬっていく順序）

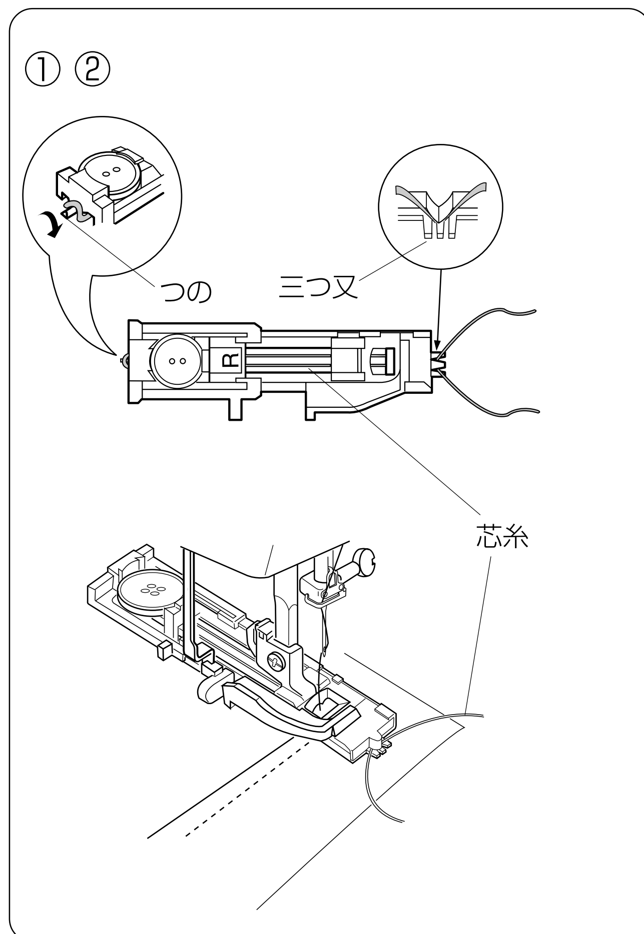
【2】 ぬい始め位置まで下ぬいをします。

【3】 自動的に第1～第4ステップをぬって、止まります。

※ボタンホールの重ねぬいをする場合には、1回目のぬい目を確実に終了させた後、再スタートしてください。

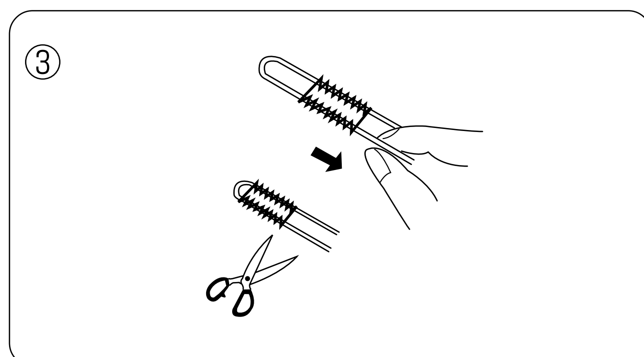
●芯入りボタンホール

ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	13 BH1　14 BH2	13	R：ボタンホール押さえ	オート（5／オート／3）



① 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② 21ページのボタンホールのぬい手順と同じようにぬいます。

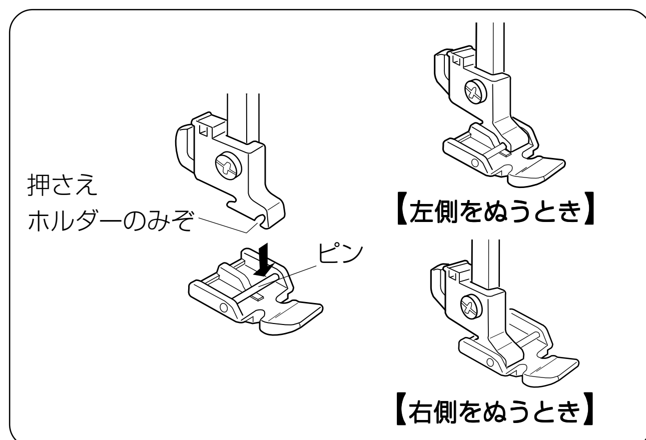


③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ボタン穴のあけ方は、23ページをごらんください。

●ファスナー付け

ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	01 02	02	A : 基本押さえ　E : ファスナー押さえ	オート（5 / オート / 3）

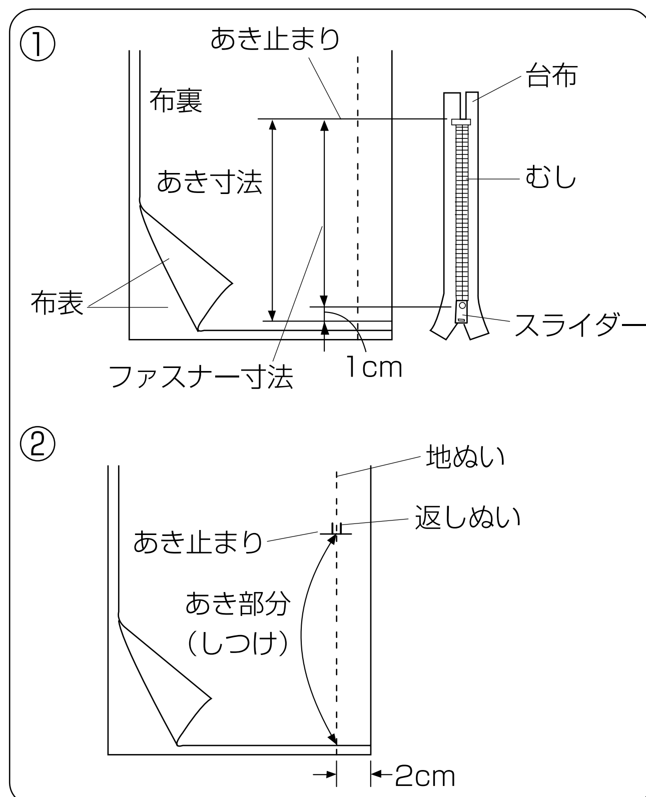


⚠ 注意

ファスナー押さえを使用するときは、必ず、模様 01 または 02 直線（針位置中）を使用し、はずみ車を手で手前にまわして、針が押さえに当たらないことを確かめてください。

【ファスナー押さえの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
右側をぬうときは、左側にセットします。



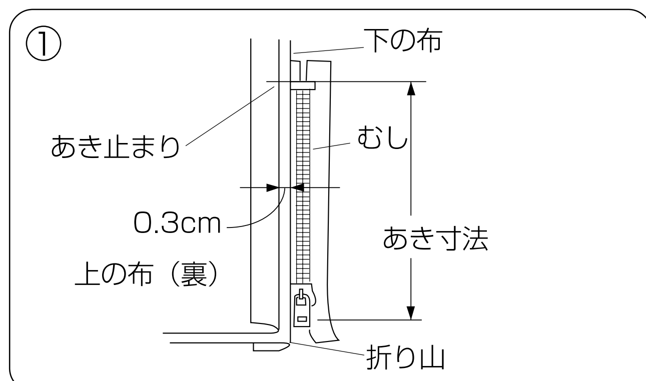
【準備】（例）左わきあきのぬい方

① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

② 地ぬいとしつけをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分は、01 でしつけをします。

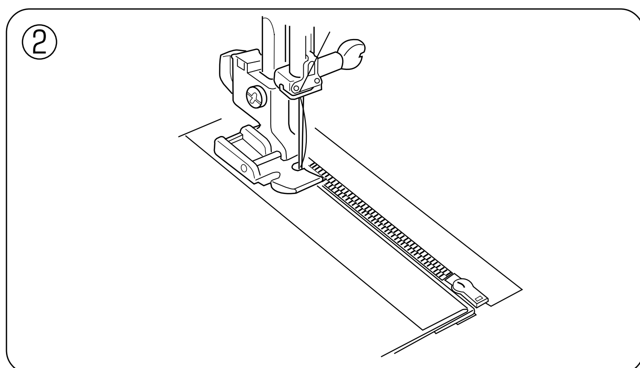
※ しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。

※ 地ぬいとしつけの部分は、A:基本押さえを使ってぬいます。



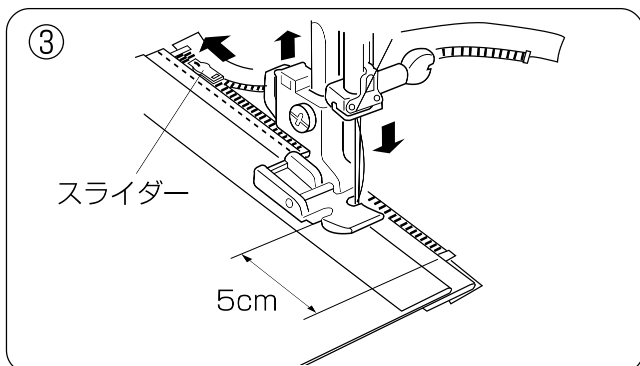
【ぬい方】

① ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。
ファスナーはとじておきます。



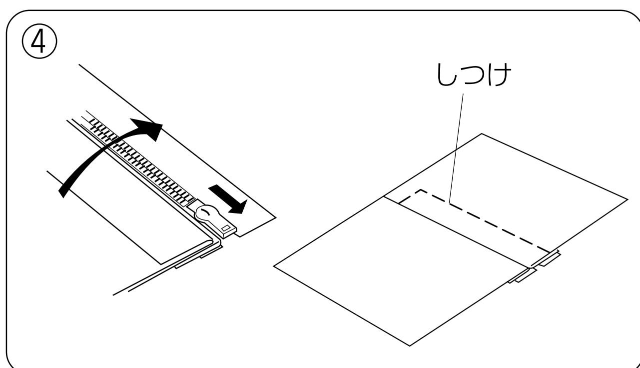
② 模様 02 、糸調子ダイヤル「オート」にセットします。押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端を当てて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



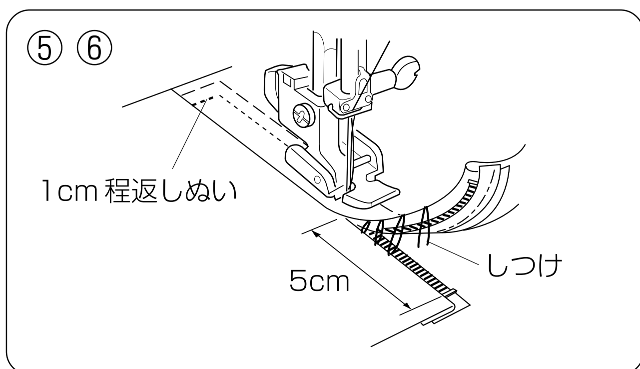
③ ファスナーの端から 5cm 位手前でミシンを止め、手ではずみ車をまわして針をさげ、布にさします。押さえをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



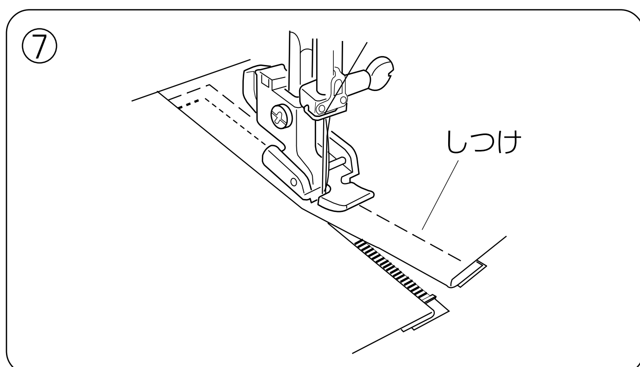
④ ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは、模様 01 、糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
ぬい終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。



⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。
上の布のあき止まりを(0.7 ~ 1cm)返しぬいし、むしのきわに押さえの端を当ててぬいます。

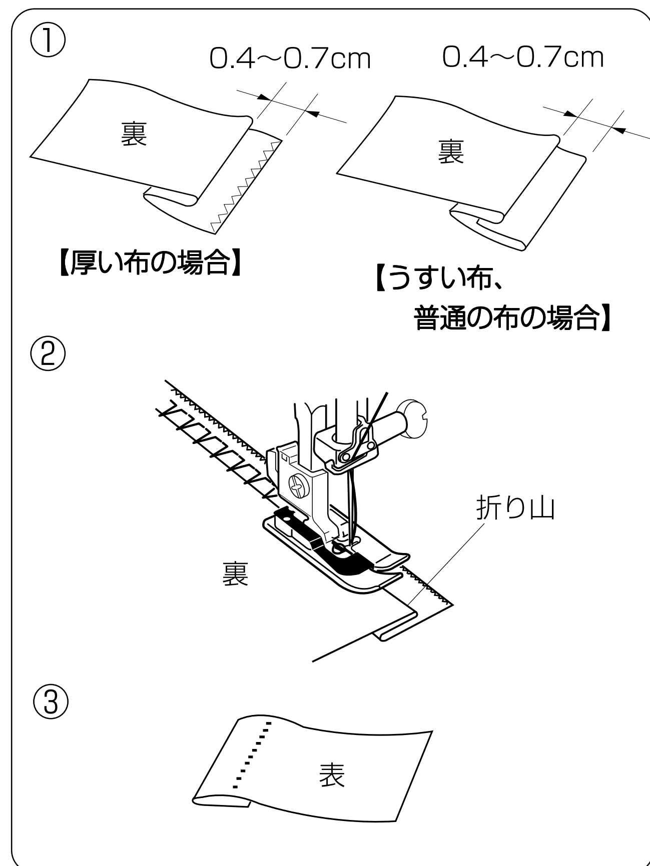
⑥ ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、手ではずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえをあげて、【準備】の手順 ② でぬったしつけ糸をほどきます。



⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

●くけぬい（まつりぬい）

ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	12	12	G：くけぬい押さえ	オート



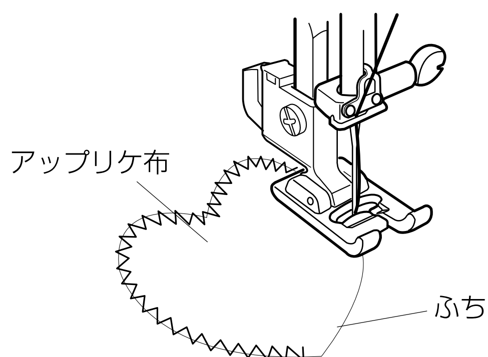
① 布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4〜0.7cmほどはみ出させます。

② ガイドを折り山に合わせ、ぬいます。

③ ぬい終わったら布をひろげます。

●アップリケ

ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	05 06	05	F : サテン押さえ	オート



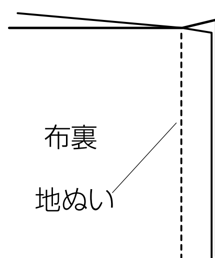
アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
アップリケ布のふちをぬいます。

※カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、「上下停針ボタン」を押して針を下位置にします。押さえをあげ、針を下位置にしたままで方向をかえます。

●パッチワーク

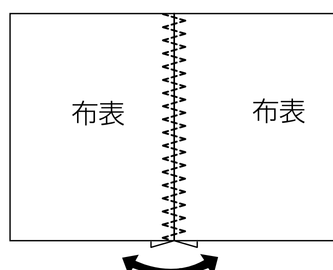
ミシンのセット	模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル
	10	10	A : 基本押さえ	オート

①



① 布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。

②



② 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●スーパー模様の形の整え方

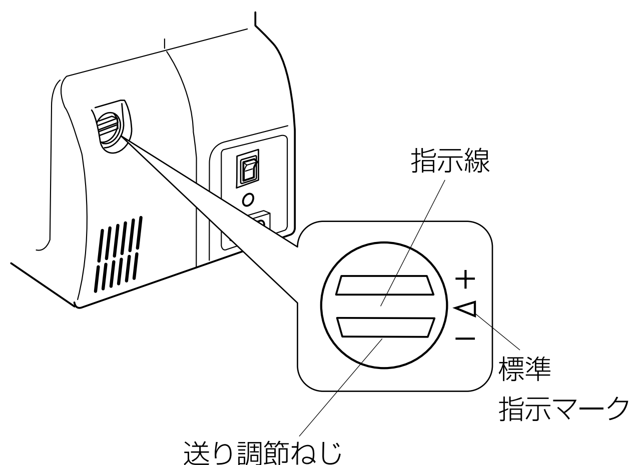
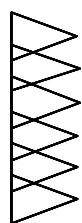


図1



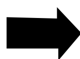
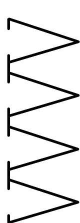


図2



※スーパー模様は 08 11 です。

（スーパー模様は、前進ぬいと後進ぬいがある模様です。）

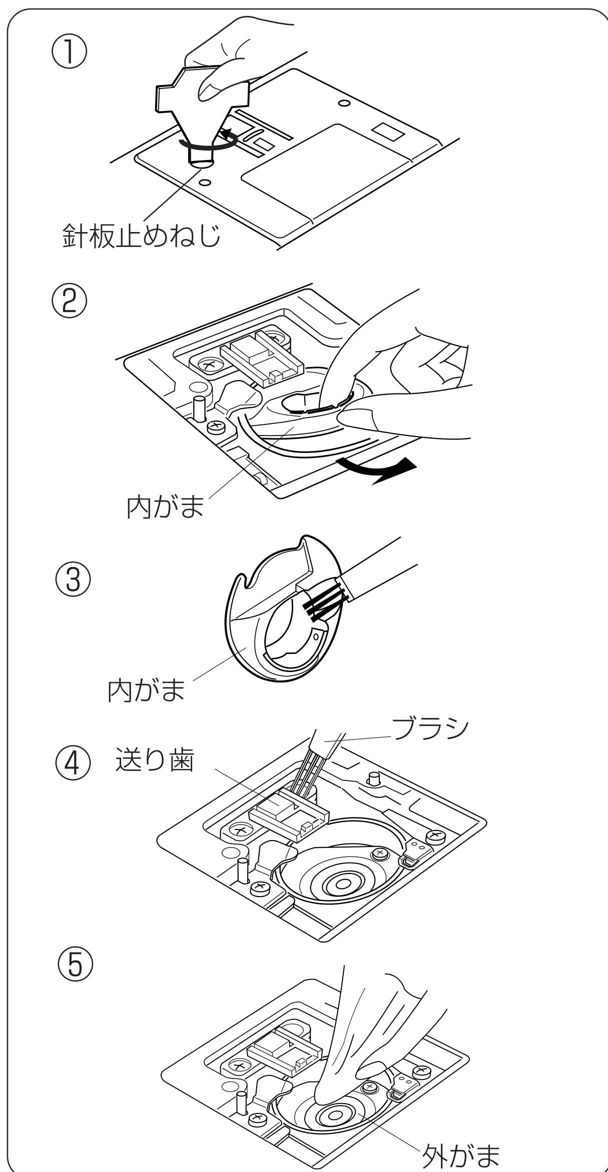
布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が模様を正しくぬえる目安の位置です。

模様が伸びたり、つまったりして形が整わないときは、送り調節ねじをまわして調節します。

図１のように、模様がつまっているときは、送り調節ねじを「＋」方向にまわします。
図２のように、模様が伸びているときは、送り調節ねじを「－」方向にまわします。

●ミシンのお手入れ



⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを「OFF」(切)にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明している箇所以外は分解しないでください。

ケガ・故障の原因になります。

★かまと送り歯の掃除

① 針と押さえを外します。
針板止めねじを外し、針板を外します。

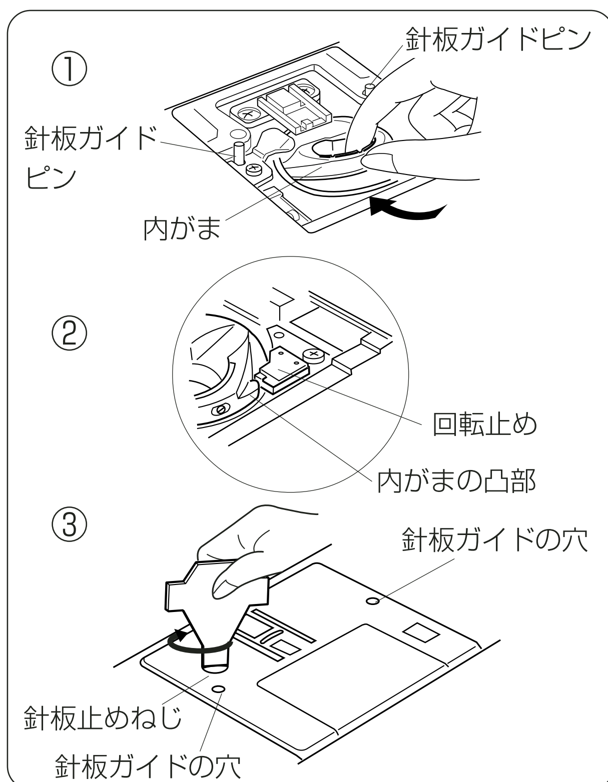
② ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。

③ 内がまをブラシ等で掃除し、布切れで軽くふきます。

④ 送り歯のごみをブラシ等で手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。



★内がまと針板の組み付け

① 内がまを差し込みます。

② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、針板止めねじをしめます。

※お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえをつけてください。

●こんな表示が出た場合

警告音とともに下の表の表示があった場合、１．5秒間表示されます。対処方法にしたがってください。

表　示	対　処　方　法
Fc	1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート・ストップボタンを押した場合に表示されます。 スタート・ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラープラグをプラグ受けから抜いてください。 2. ぬい中にフットコントローラープラグを差し込んだり、外したりした場合に表示され、ミシンが停止します。 フットコントローラープラグの抜き差しは、電源を切ってから行ってください。
Lo	厚物をぬったり、糸がらみなどでミシンに過大な負荷がかかった場合、安全装置が作動して、ミシンが停止し表示します。再度ミシンを運転する場合には、約15秒待ってからミシンをスタートしてください。 また、負荷がより大きな場合には安全装置が作動して、ミシンが故障しないようミシンの電源を遮断することがあります。 一旦ミシンの電源を切り、3分間待ってからご使用ください。 糸がらみ等があった場合には、電源を切り、不要な糸を取り除いてください。
bL	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを０.５ｃｍぬうと、表示されます。ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートしてください。
UP	ボタンホールをぬった後に他の模様を選択しようとした場合に1度表示されます。 ぬいが終わったらボタンホール切りかえレバーと押さえ上げをあげてください。 安全の為、ボタンホール押さえのままで、他の模様をぬわないでください。
SP	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 ※糸巻き軸をもとの位置にもどすまで、表示されます。
E3 ～ E8	電源投入時に表示された場合は、ミシンが故障しています。 お買上げの販売店へご連絡ください。

★ブザー音の種類

ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい終了などの終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸がらみしている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引き出していない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照 9ページ参照 10ページ参照 10ページ参照 17ページ参照 17ページ参照 10ページ参照
下糸が切れる	1. 下糸のかけ方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	13ページ参照 31ページ参照 ボビンを交換する。
針が 折れる	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。	10ページ参照 10ページ参照 17ページ参照 10ページ参照
ぬい目がとぶ	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸があっていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	10ページ参照 10ページ参照 10ページ参照 14ページ参照 針を交換する。
ぬい目がしわになる	1. 上糸調子があっていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。	9ページ参照 13、14ページ参照 10ページ参照
布地を送らない	1. 送り歯に糸くずがたまっている。	31ページ参照
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が細すぎる。	9ページ参照 10ページ参照
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻き軸が、下糸巻き位置にセットされている。(糸巻き状態になっている)	4ページ参照 31ページ参照 12ページ参照
ボタンホールがきれいにぬえない	1. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	芯地を貼る。
音が高い	1. かまの部分に、糸くずがまき込まれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	31ページ参照 31ページ参照

♥ MEMO ♥

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

１）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。

２）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。

３）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。

４）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。

５）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住　所　〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

電　話　お客様相談室　0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）
042 － 661 － 2600

受　付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）

ホームページ　http://www.janome.co.jp

メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

仕様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	35W
外形寸法	幅 35.4cmX 奥行 16.4cmX 高さ 26.4cm
重　量	5.5kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
ぬい速度 （最高速度）	毎分 650 針 フットコントローラー使用時（毎分 650 針）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

806-800-158